

可視化サイトの普及活動

～都市構造可視化サイトの活用～



東北地方整備局 建政部 都市・住宅整備課

i-都市交流会議2020

1

目次

可視化サイトの利活用と周知

- ◆ 周知活動（自治体へのPR）
- ◆ 立地適正化計画の作成促進キャラバンでの情報提供
- ◆ 可視化サイトを活用した講演の実施
- ◆ 今後の活用方法について（公園事業・下水道事業）

i-都市交流会議2020

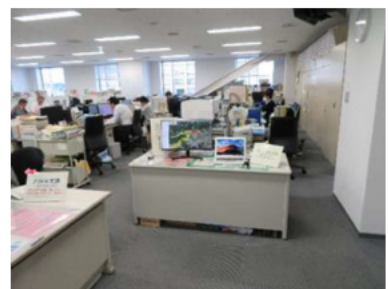
2

1.活用方法①

①周知活動（自治体へのPR）

自治体との打ち合わせ時に情報提供

自治体との打ち合わせ終了時に可視化サイトについて紹介。
今後のまちづくりの方向性を考えるきっかけを与える。



2.活用方法②

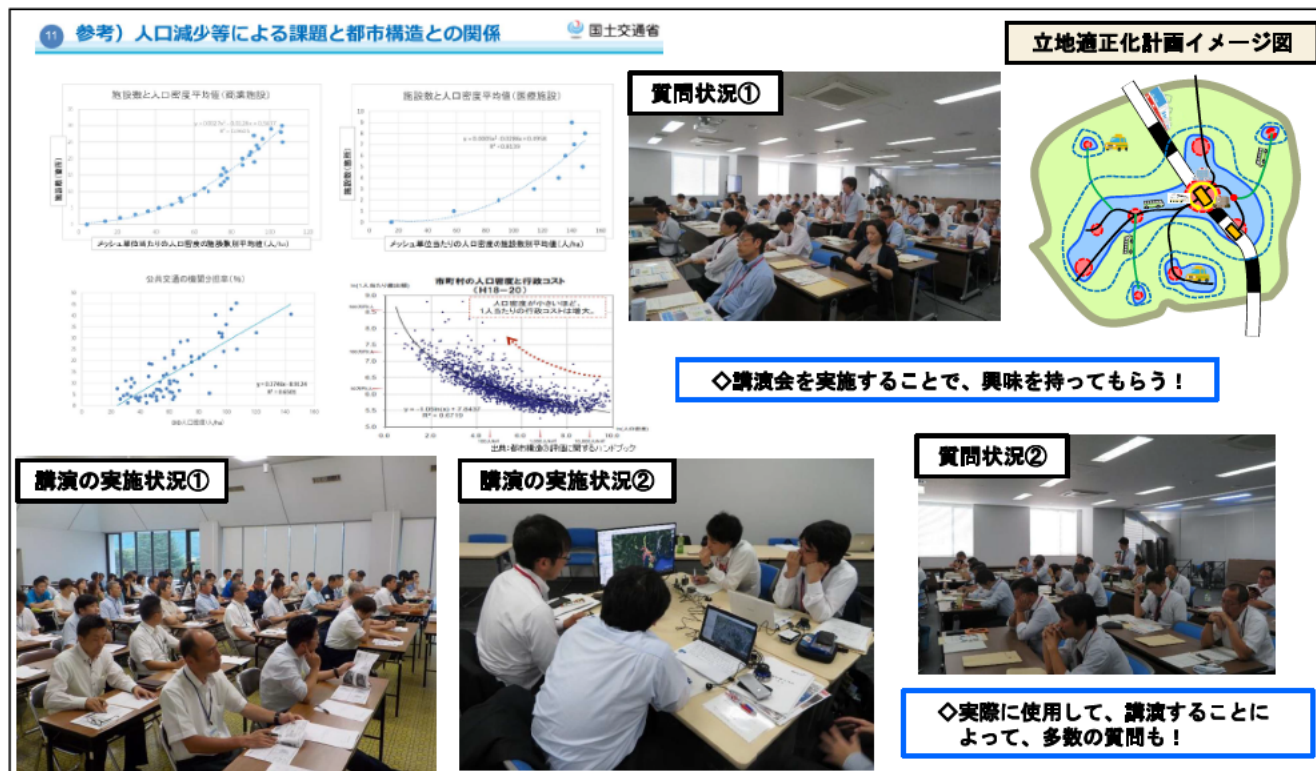
②立地適正化計画の作成促進キャラバンでの情報提供

説明会での 周知状況



3.活用方法③

③ 立地適正化計画に関する講演会において可視化サイトを活用した講演の実施



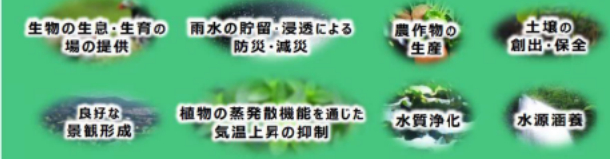
i-都市交流会議2020

5

4.今後の活用方法（公園事業）

◇グリーンインフラ活用型都市構築支援事業

自然環境（緑、水、土、生物等）には多様な機能が備わっている。この機能が発揮できるよう、戦略的に社会資本整備や土地利用を図ることで、より効率的・効果的に社会的・経済的課題の解決を図ることができる。



「グリーンインフラ」とは

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

- ・緑化による暖和効果
屋上等を緑化することにより、土壌の断熱作用や植物自体が日射を遮ることによる温度浄書抑制や省エネ効果



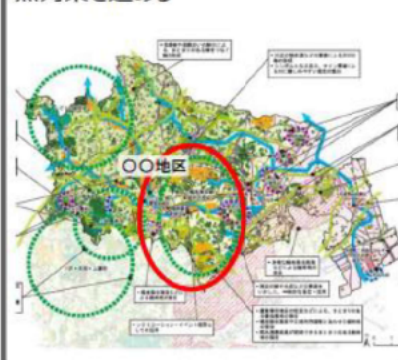
i-都市交流会議2020

- ・レインガーデン
- ・遮熱性舗装の効果
- ・民有地緑地



緑の基本計画

〇〇地区においては、グリーンインフラの取り組みを進め、雨水流出の抑制を図るとともに、駅周辺の賑わい創出、暑熱対策を進める



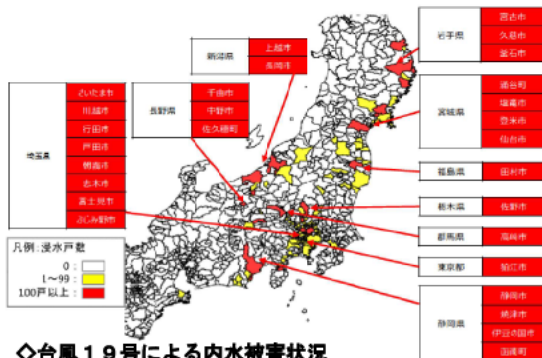
6

5.今後の活用方法（下水道事業）

○ 内水被害発生国体*（ ）内は市区町村数

岩手県（5）、宮城県（14）、山形県（1）、福島県（8）、茨城県（31）、栃木県（8）、群馬県（1）、埼玉県（34）、千葉県（1）、東京都（29）、神奈川県（12）、長野県（7）、新潟県（7）、静岡県（12）、三重県（2）

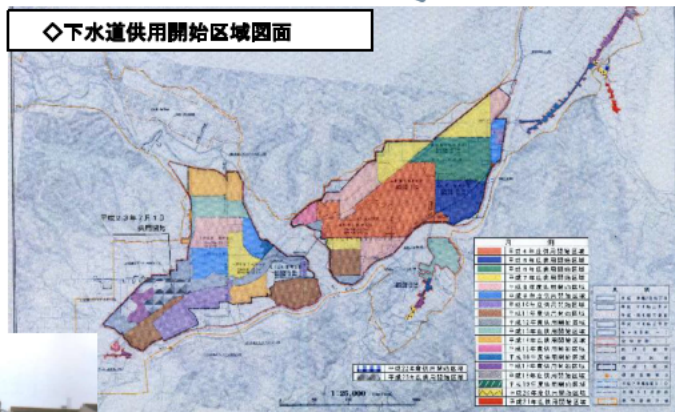
*被害戸数は地方公共団体からの報告による。なお、外水被害を含む場合があることから、今後変動することがある。



◇下水道未普及対策

- ・ 下水道の未普及地区の把握
- ・ マンホール、ポンプ、管経・管種の把握

◇下水道供用開始区域図面



◇浸水対策

- ・ 浸水区域の把握
- （時間雨量、河川の水位、ゲートの上げ下げ）

◇浸水被害状況



i-都市交流会議2020

7

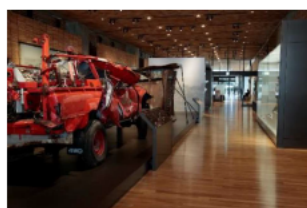
東北地方整備局

都市の紹介

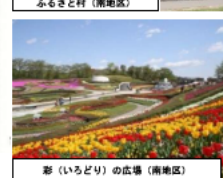
高田松原津波復興祈念公園（岩手県高田松原市）



写真



国営みちのくの湖畔公園（宮城県川崎町）



開催状況

みちのく公園⇄秋保温泉⇄仙台国際空港を結ぶ
（民間のバス会社が運行し、営業運行を検証）
25%が外国人利用者（平成30年9月時点）



- ・ 1チームで42.195kmを走る。
- ・ 1周約1.1kmのコースをたすきをつないで、37周！

i-都市交流会議2020

8